

# 令和元年【第2回】 「いわて復興ウォッチャー調査」結果報告

## 1 目的

東日本大震災津波からの復興状況を定期的に把握するため、被災地域において復興の動きを観察できる立場にある方々の協力を得て、復興感に関する調査を実施する。

## 2 調査の概要

### (1) 調査対象

岩手県の沿岸12市町村に居住又は就労している方 153名  
※原則として、毎回同じ方を対象に調査を実施

### (2) 調査方法

郵送法(郵送による発送、返信用封筒による返送)

### (3) 調査対象時期

令和元年7月(次回調査は令和2年1月予定)

### (4) 調査項目

- 問1 被災者の生活の回復に対する実感 (被災者の生活の回復度及び直近6ヶ月間の進捗状況)  
問2 地域経済の回復に対する実感 (地域経済の回復度及び直近6ヶ月間の進捗状況)  
問3 災害に強い安全なまちづくりに対する実感  
(災害に強い安全なまちづくりの達成度及び直近6ヶ月間の進捗状況)

### (5) 回収結果

有効回収率 77.1%(118名/153名) <前回 83.7%(平成31年1月調査)>

### (6) 回答者の属性

#### ①性別

性別	人数	割合
男性	81	68.6%
女性	37	31.4%
不明	0	0.0%

#### ②地域別

地域	人数	割合
沿岸北部	38	32.2%
沿岸南部	80	67.8%
不明	0	0.0%

#### ③年齢別

年齢別	人数	割合
39歳以下	11	9.3%
40歳代	25	21.2%
50歳代	42	35.6%
60歳以上	40	33.9%
不明	0	0.0%

#### ④住宅被害の有無

被災有無別	人数	割合
被災あり	68	57.6%
被災なし	46	39.0%
不明	4	3.4%

#### ⑤ 職業・所属等

- ・ 地域団体・郵便局関連(応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など) 44名(37.3%)
- ・ 教育・福祉施設関連(小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など) 34名(28.8%)
- ・ 産業・経済・雇用関連(漁業・農業従事者/就業支援員等雇用支援機関の関係者/金融機関の関係者など) 40名(33.9%)

#### ■参考■

- 「回復度」「達成度」とは、発災以降における全体の回復状況についてお尋ねしています。「進捗状況」とは、直近6ヶ月の進み具合についてお尋ねしています。
- 沿岸北部とは、洋野町・久慈市・野田村・普代村・田野畑村・岩泉町の6市町村、沿岸南部とは、宮古市・山田町・大槌町・釜石市・大船渡市・陸前高田市の6市町です。

※ 調査結果の集計・分析にあたっては、岩手県立大学総合政策学部の協力を得て行っています。  
※ 掲載する割合(%)は、小数点第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

### 3 調査結果の概要(1) 被災者の生活の回復に対する実感

○被災者の生活の回復度については、「回復した」が40.2%と、前回(35.4%)を4.8ポイント上回った。また、「回復した」「やや回復した」の合計も86.4%と、前回(85.8%)を0.6ポイント上回った。

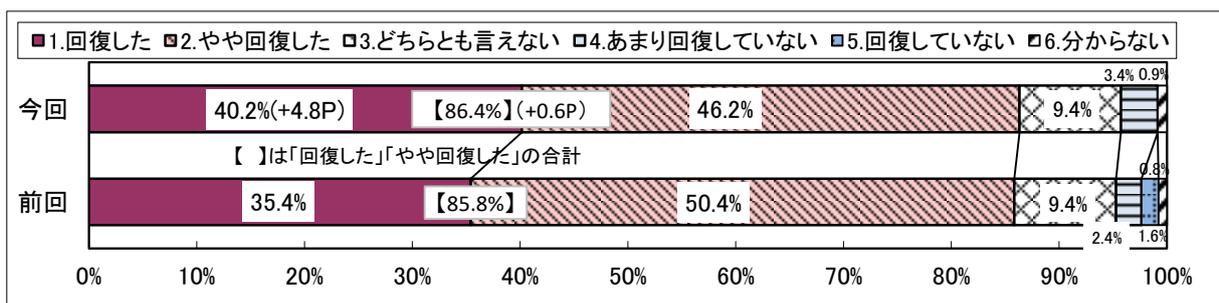
○地域別では、「回復した」が、沿岸北部で50.0%と前回(52.4%)を下回り、沿岸南部では35.4%と前回(27.1%)を上回った。「回復した」「やや回復した」の合計は、沿岸北部で92.1%と、前回(97.6%)を下回り、沿岸南部では83.5%と、前回(80.0%)を上回った。また、沿岸北部と沿岸南部の差は8.6%と、前回(17.6%)から縮まった。

○直近6ヶ月の進捗状況を見ると、「進んでいる」が35.9%と、前回(31.2%)を上回り、「進んでいる」「やや進んでいる」の合計は77.8%と、前回(78.4%)を下回った。

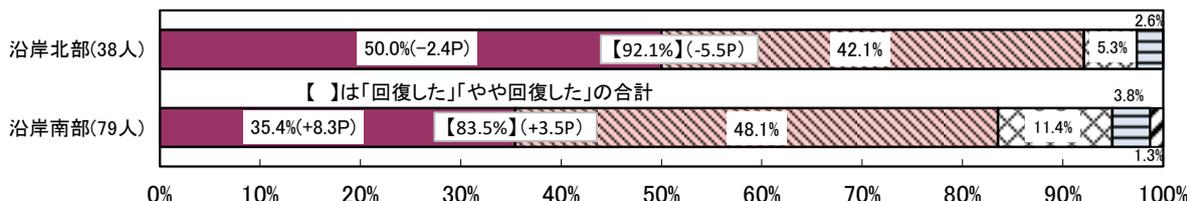
復興道路、三陸鉄道リアス線の全面開通の効果への期待や住宅再建が進んでいるという声が多いが、まちのにぎわい創出や新たなコミュニティ形成の課題があるとの声もあった。

#### ① 被災者の生活の回復度(震災以降における全体の回復状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、被災者の生活は被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

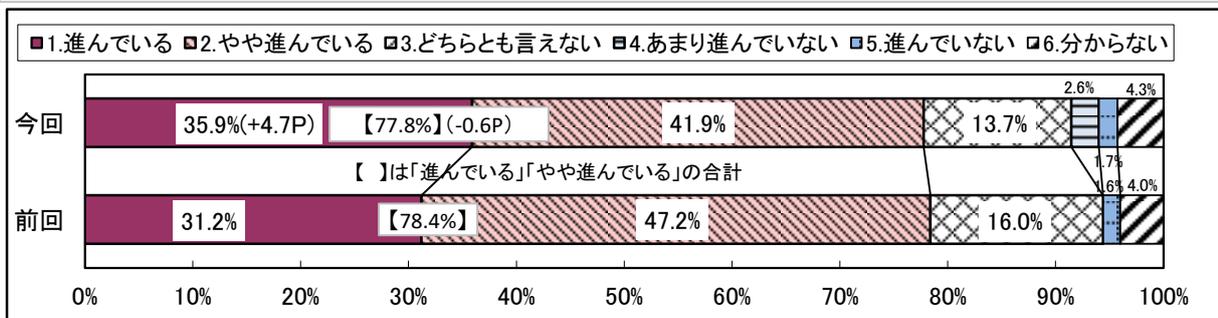


#### 地域別

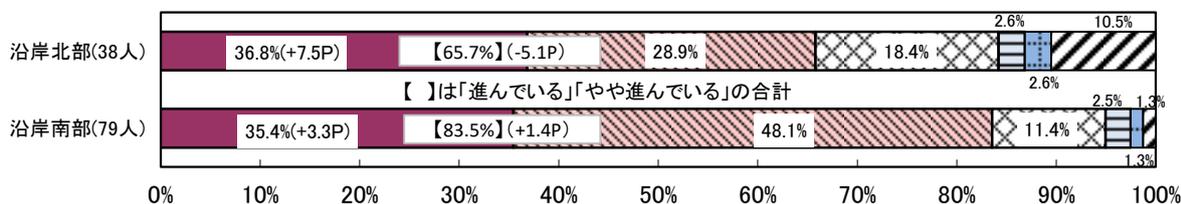


#### ② 直近6ヶ月間(おおむね1月から7月まで)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(6ヶ月程度)被災者の生活の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？



#### 地域別



\* ( ) 内は回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する回答理由など[自由記載]

区分	理由(要旨)
<p>「1.回復した」 又は 「1.進んでいる」 の理由</p>	<p>◆道路の通行止めが解除になったり、建物ができたりして、復興が進んでいると感じる。楽しみ!(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆当初は約250世帯が入居していた当団地も、自宅再建等で退去が進み、現在は5世帯位となっている。応援職員等の入居が多い状況。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆災害復興道路の整備促進に併せて、高台移転地造成の完成を迎え、復興住宅の建設最終ラッシュを迎えた。関谷担い手仮設団地は本年暮れにはほとんどの世帯が転居することとなった。喜ばしい限りである。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆被災者の住宅再建も急ピッチで進み仮設住宅も集約になり、仮設も徐々に解体が始まっている。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆新しく建設された住宅や店が目立ってきた。震災時の悲惨な状態を感じさせないぐらい活気が溢れてきたと思う。(20歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆復興道路の開通および三陸鉄道の全線開通など、交通網の整備が進んだ。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p> <p>◆災害公営住宅団地の自治会の維持が難しそうだ。空き室に一般の方が入居しはじめていて、その方々を含めたコミュニティ形成に困難を感じる人たちが少なくない。(50歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p>
<p>「2.やや回復した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由</p>	<p>◆高台造成が進み、住宅再建の面で進んできている地区がある一方、区画整備の遅れから再建の目途が立たず、仮設での生活を余儀なくされている現実もある。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆三陸道釜石道の開通。三陸鉄道全線開通。一方で仮設住宅での生活を余儀なくされている人もいる。インフラの整備はRWC2019に合わせて急ピッチで進んでいる。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆人の声ですが、高台に移住した方が今は車での移動だから良いが、数年後のことを気にしている方も多いとのこと。足・腰が不自由な方も車での移動が見られる。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆インフラ整備は着々と進んでいるが、心のインフラ(コミュニティ)再生が急務と思われる。震災直後のときよりも孤独死が増えているような気がする。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆4月に職場で新しい人との出会いがありその中で被災された方々も数名いた。今年はほとんどの方が(自分が被災していることを)お話されていた。それだけ本人の中で状況が回復したと感じたからではないか。(40歳代,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p> <p>◆三陸道や横断道路の開通は地域にとって、とてもありがたいことだ。子供たちが自由にのびのびと遊べるような芝生広場や公園が必要。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p> <p>◆三陸鉄道の開通は、非常に明るいニュースとなった。今でも沿線住民は列車が通るたびに手を振る。乗客もそれを見て振返してくれる。これは以前は見ることのできない(少ない)光景である。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p> <p>◆住宅移転も終わり安定した生活が送れているように感じる。三陸道や三陸鉄道が開通し震災以前よりも便利になっている。復興工事が終わったあとの雇用は心配。(40歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸北部)</p>
<p>「3.どちらとも言えない」 の理由</p>	<p>◆公営住宅などでは個々の部屋が立派になりすぎて、隣の状況が分からない。特に男性が孤立する傾向にある。(60歳以上,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆人口減が著しく、賑わいも半減しているように感じる。自力再建可能な方は、ほぼ完了していると感じる。今後は自力再建できずにいる低所得者や独居老人の対策が必要になると思う。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p>

注1)「理由(要旨)」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2)「区分」別の「理由(要旨)」数は、区分の回答比率におおむね準じています。

注3)掲載内容は、同旨意見の多かった内容や回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連: 応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など

教育・福祉施設関連: 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など

産業・経済・雇用関連: 漁業・農業従事者、就業支援員等雇用支援機関の関係者、金融機関の関係者など

### 3 調査結果の概要(2) 地域経済の回復に対する実感

○地域経済の回復度については、「回復した」が23.1%と、前回(14.1%)を9.0ポイント上回った。また、「回復した」「やや回復した」の合計も63.3%と、前回(55.5%)を7.8ポイント上回った。

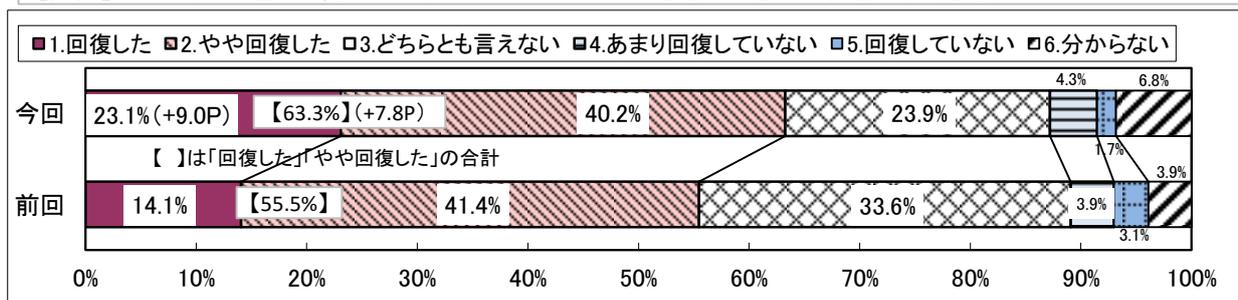
○地域別では、「回復した」が、沿岸北部で29.7%と前回(26.2%)を上回り、沿岸南部でも20.0%と前回(8.1%)を上回った。「回復した」「やや回復した」の合計は、沿岸北部で67.5%と、前回(69.1%)を下回り、沿岸南部では61.3%と、前回(48.8%)を上回った。また、沿岸北部と沿岸南部の差は6.2%と、前回(20.3%)から縮まった。

○直近6ヶ月の進捗状況を見ると、「進んだ」が17.1%と、前回(10.2%)を6.9ポイント上回り、「進んだ」「やや進んだ」の合計も52.1%と、前回(46.1%)を6.0ポイント上回った。

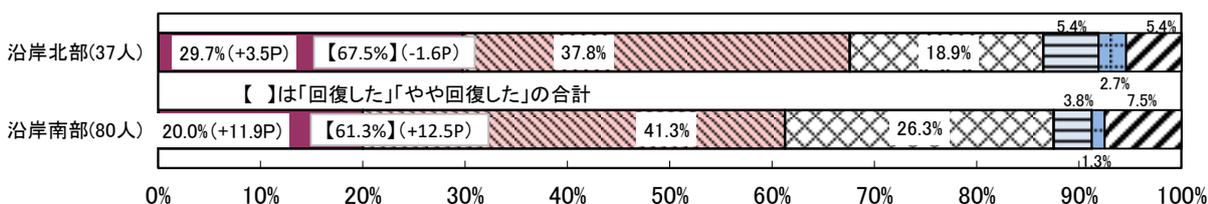
復興事業の進捗やラグビーワールドカップ2019<sup>™</sup>などのイベント関係による経済回復の期待がある一方で、復興需要の減少に対する懸念、主要魚種の不漁による経営への影響を訴える声もあった。

#### ① 地域経済の回復度(震災以降における全体の回復状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、地域経済は被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

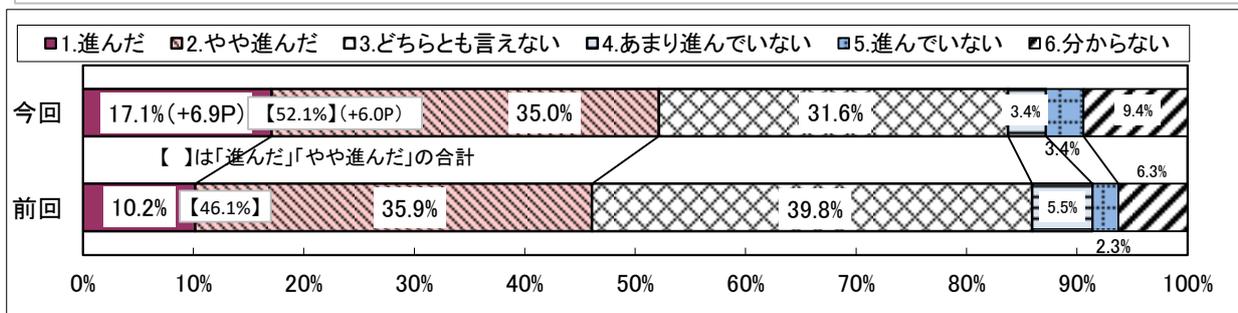


#### 地域別

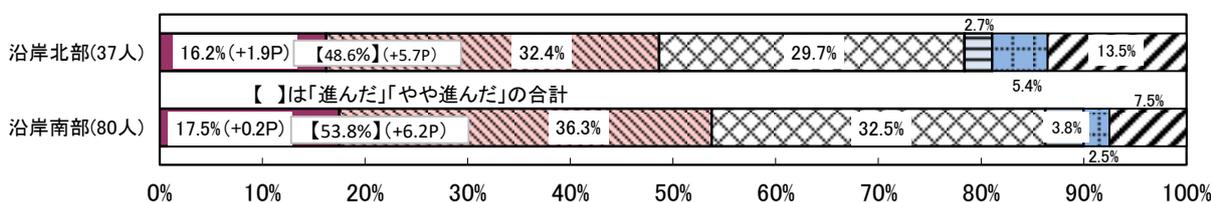


#### ② 直近6ヶ月間(おおむね1月から7月まで)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(6ヶ月程度)地域経済の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？



#### 地域別



\* ( ) 内は回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する回答理由など[自由記載]

区分	理由(要旨)
<p>「1.回復した」 又は 「1.進んだ」 の理由</p>	<p>◆震災後の復興需要による建設業や関連業種が潤った感があるが、逆に今後が心配である。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p> <p>◆全体としての生活実感としては回復したと思われる。ただ、震災前に従事していた小型船での仕事を資金面や年齢の関係により離れざるを得ない人達があり、仕事の環境が大幅に変わってしまっている状況がある。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸北部)</p> <p>◆復興のスピードが他の自治体より早いので、復興特需が終わりに近づくのも早く、景気が徐々に落ち込んできている。少子高齢化や水産物の水揚げ減少も加わっているため規制緩和などの措置を県に望みたい。(50歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆農業、漁業も被災前と変わらないくらい回復している。商業は以前と同じようなくらいまで回復しているが、今まで無かった道路ができて商店のある地域を通らないので売上に影響している。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸北部)</p>
<p>「2.やや回復した」 又は 「2.やや進んだ」 の理由</p>	<p>◆沿岸地区にとって主要な産業である漁業、それに伴う水産加工業は、後継者不足・人手不足で、先が見えない。サケは回復基調にあるが、イカの不漁は深刻。ワカメも厳しい。自然相手なのでやむを得ない。(40歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆震災が起こってなくても、地域経済はきびしかったと考えると、こんなものかなと思う。ただ、支援があったからといっても、自己負担はあるので、今後、それが、どのように解消していけるかは未知。(50歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆三陸道路の整備が進み、RWCが目前になり様々な業種で活性化が進んでいると思うから(今後もこのように活性化していくことが続くことを望む)。(40歳代,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p> <p>◆復興道路関連事業の振興によって地域経済は以前に比較すれば回復した感が強い。事業が終了した後について、経済振興策が見えてこないことに不安がある。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸北部)</p> <p>◆震災後長男がUターンしてきた直後は仕事がなかったが、新規就農者支援制度を利用して農業者になった。いろいろな制度が簡単に利用できるような仕組みになれば、新しく、農林水産業になる人が増えるかも。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸北部)</p> <p>◆三陸鉄道開通で、イベント列車も好評の様子、このまま地域活性化につながってほしい。商業施設、女川のように飲食店や足湯など1か所で1日滞在できるくらいの企画規模が望ましかった。(30歳代,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p> <p>◆水産物や農産物のブランド化の動きがとても目立ったように感じた。今までは「取れてよかった」という感じだったが今はその価値付けにシフトしていることに回復を感じる。(40歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p>
<p>「3.どちらとも言えない」 の理由</p>	<p>◆中心市街地の商業施設完成、まちなか会等も設立し、一部の店舗は戻ってきてはいるが、スピード感に欠けている。土地の有効活用に向けて、行政・民間との連携強化が必要。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆震災から8年3か月が経過し、仮設事業所は姿を消している。基幹産業の水産業を中心に、経営形態の変更に努力しながら、各事業所とも生き残りをかけた経営を余儀なくされている。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆サケ、スルメイカ漁等が不振で定置漁業の経営を苦しめている。浅海漁業にあつて磯焼け現象が続く。海藻不足は、ウニ・アワビの成育に多大の影響をもたらす。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆復興工事に従事していた方々が減ってきている。町全体の人口も減少している。本校にいたっては、震災前の537名から現在は266名と半減している。町民一丸となって山田町を盛り上げていかなければ。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p> <p>◆三陸道が開通したことで物流や観光で大きな成果があると思う。その反面、地域の商店は車の流れが変わり活気がなくなっているように感じる。新たに、人を呼び込む活動が必要。(40歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸北部)</p>
<p>「4.あまり回復していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由</p>	<p>◆復興工事が進み作業員が減少し、飲食店等の売り上げが減少。復興道路の開通により被災地の道の駅等の商店への観光客が減少している。若者の人口流出により労働力不足の為、事業継続できない会社が増加中。(60歳以上,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p>

注1)「理由(要旨)」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2)「区分」別の「理由(要旨)」数は、区分の回答比率におおむね準じています。

注3)掲載内容は、同旨意見の多かった内容や回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連: 応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など  
 教育・福祉施設関連: 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など  
 産業・経済・雇用関連: 漁業・農業従事者、就業支援員等雇用支援機関の関係者、金融機関の関係者など

### 3 調査結果の概要(3) 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

○安全なまちづくりの達成度については、「達成した」「やや達成した」の合計が74.3%と、前回(68.5%)を5.8ポイント上回った。また、「あまり達成していない」「達成していない」の合計は4.3%と前回(5.5%)を下回った。

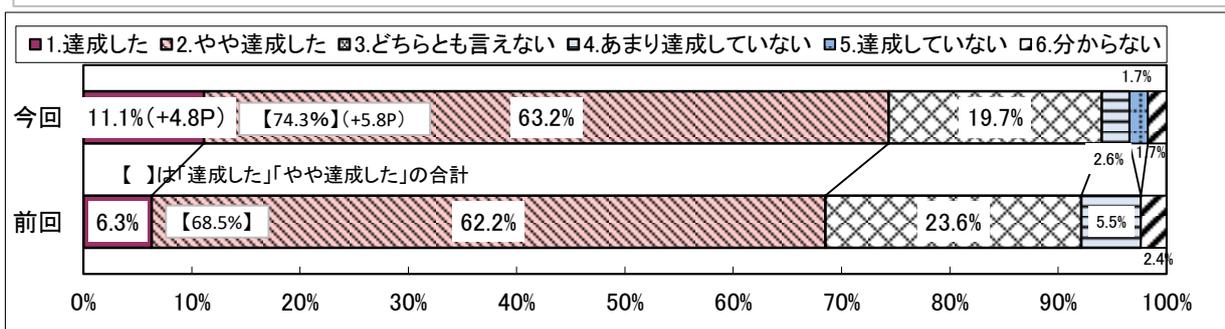
○地域別では、「達成した」「やや達成した」の合計は、沿岸北部で75.7%と前回(64.3%)を上回り、沿岸南部でも73.8%と前回(70.6%)を上回った。また、沿岸北部と沿岸南部の差は1.9%と、前回(6.3%)から縮まった。

○直近6ヶ月の進捗状況を見ると、「進んでいる」「やや進んでいる」の合計が74.3%と、前回(72.2%)を2.1ポイント上回った。また、「あまり進んでいない」「進んでいない」の合計は2.6%と、前回(3.2%)を下回った。

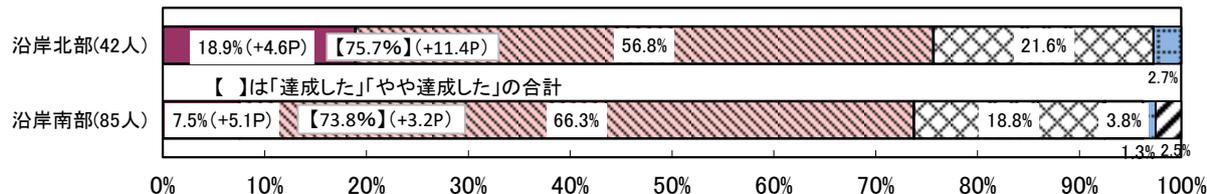
防潮堤工事等の進捗を評価する声が多い一方で、地域での避難体制の構築の必要性を訴える回答もあった。

#### ① 災害に強い安全なまちづくりの達成度(震災以降における全体の達成状況)

【設問】あなたの周囲をご覧になって、災害に強い安全なまちづくりは、被災前と比べてどの程度達成したと感じますか？

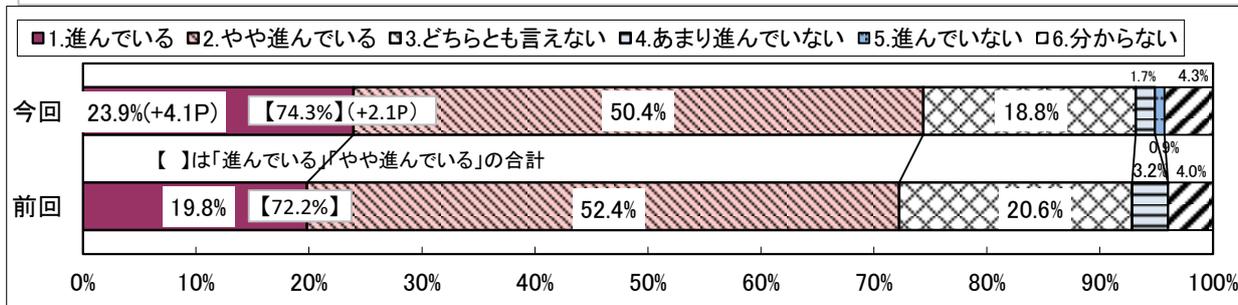


#### 地域別

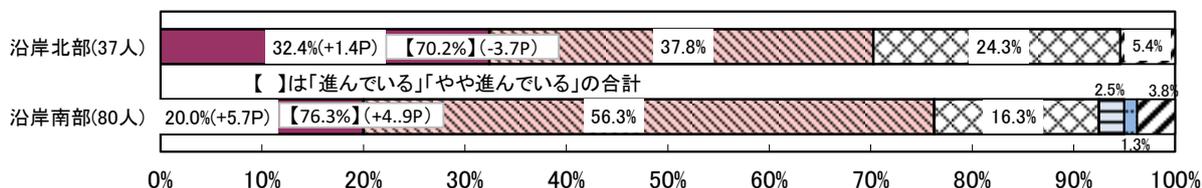


#### ② 直近6ヶ月間(おおむね1月から7月まで)の進捗状況

【設問】あなたの周囲をご覧になって、最近の(6ヶ月程度)災害に強い安全なまちづくりの進み具合は、どの程度と感じますか？



#### 地域別



\* ( ) 内は回答者数を示す

③ 達成度(①)、進捗状況(②)に関する回答理由など[自由記載]

区分	理由(要旨)
<p>「1.達成した」 又は 「1.進んでいる」 の理由</p>	<p>◆山を削り、これ以上安全なところはないと思うくらい良い土地となり、皆さんが再建を果たした。今時の素敵なおうちが立ち並んでおり、再建への大きな希望に元気を取り戻している。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆復興道路が開通し、明るいニュースとして喜びを感じている。防潮堤も完成し海が見えにくくなったが、安全、防災のための施設としてみている。復興教育を常に意識しながら、こどもたちへの指導を行っていきたい。(60歳以上,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p> <p>◆県内各自自治体で防災マップの見通しが進んだと感じる。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸北部)</p>
<p>「2.やや達成した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由</p>	<p>◆この地域においては台風被害が大きく、この部分についてはこれから県の河川工事が本格化してくるものと思われる。ただし、用地買収の作業の難航も想定されており、進捗にはやや時間を要することが懸念される。(40歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸北部)</p> <p>◆防潮堤の建設は遅れながらも進んでおり、安全度が高まっている。昭和35年度のチリ地震津波をきっかけに、今回のような対応ができればと悔やまれてならないが、当時の国力を考えると無理であったかと思う。(40歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆岩手県は昭和35年のチリ地震津波で防潮堤が設置されたことで、当時北から南の地域で海苔の養殖がされていたが、全地域で海苔が取れなくなり廃業を強いられた。今後海面養殖している地域の生産の影響を危惧する。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆海の見えない防潮堤に異様さを感じる。高台地からは海が望めるが、海に見える自然が、遠くってきていることは寂しい。今後の子供たちの生き方が、どのようになるのであろうか、予測不明である。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆ハード事業は終盤になり海の見えない街並みに住民が慣れ始めている。避難訓練の参加者が減少している。(60歳以上,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆防潮堤ができてその近くに公園が整備されている。家族連れでも楽しめる広い公園でいいと思う。もしも、その場所にいたときに大きい地震があったらどう避難するか少し不安を感じた。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p> <p>◆災害に強い安全な町づくりは人々の意識の高さが重要。地震津波だけでなく、台風大雨による河川の氾濫や土砂崩れなどの災害を防ぐための堤防や砂防ダムの見直し、避難所との連携など住民を巻き込んで再検討必要。(40歳代,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p> <p>◆「震災前に役立つ情報」をクリアファイルにプリントされたものを(たぶん)全世帯に配っており、日頃から住民たちにもしものときの意識づけを行っていると思う。(20歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆縦貫道がつながったことは、避難時・救援時に期待できる。ただ、私のように避難で使えると思っていても多いと思うので、避難先ではないことの周知や改めてその地域の避難場所の確認をしたほうがいいと思う。(30歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆「災害に強い安全なまちづくり」を復興のメインにしたはずだが、行政には住民意見に耳を傾ける姿勢が乏しい。集団移転地は、以前から水害の危険がある。津波はもちろん、水害も同時に考えるべきであった。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸北部)</p>
<p>「3.どちらとも言えない」 の理由</p>	<p>◆防潮堤はできたけれども、守るべき住宅は高台移転でほとんどない。仮設店舗も年とともに苦しうになっている。どんどん寂れていく地域の前方に巨大な防潮堤がそびえただけだ。何を守るのか。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸北部)</p> <p>◆防潮堤の工事や三陸道の整備が進んでいる。防潮堤の工事が進んでも万が一災害が発生したとき避難するのは本人の判断になってしまう。家族や地域で早めの避難ができる体制が必要。(40歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸北部)</p> <p>◆防潮堤工事は進んでいるが、防潮堤工事が完了しない限り震災前より危険な状況。避難路についても地域住民はわかるかもしれないが市外の方々や観光客等は有事の時心配。早期完成を願っている。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆大震災の教訓とは・・・と考えると、防潮堤は信用せず、まずは高台に逃げること！！防潮堤等の整備にいくらかかっているのでしょうか・・・?と思う。(40歳代,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p>

注1) 「理由(要旨)」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2) 「区分」別の「理由(要旨)」数は、区分の回答比率におおむね準じています。

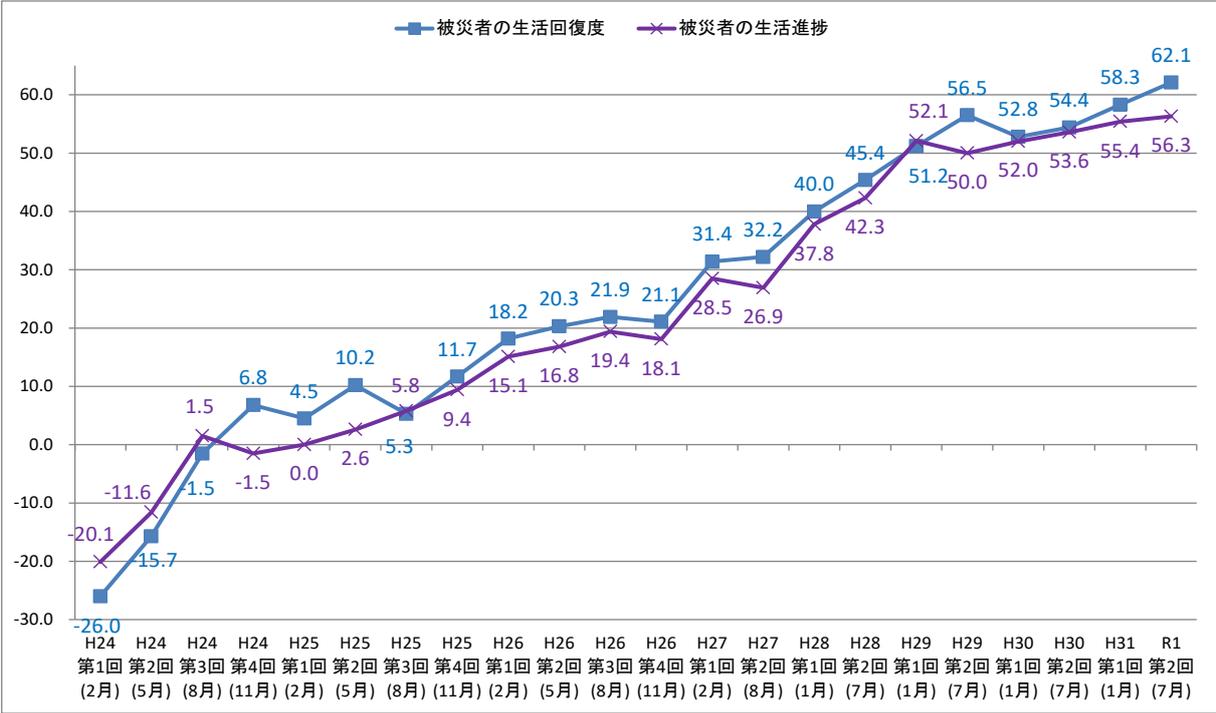
注3) 掲載内容は、同旨意見の多かった内容や回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連: 応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など  
 教育・福祉施設関連: 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など  
 産業・経済・雇用関連: 漁業・農業従事者、就業支援員等雇用支援機関の関係者、金融機関の関係者など

いわて復興ウォッチャー・動向判断指数(DI)の推移

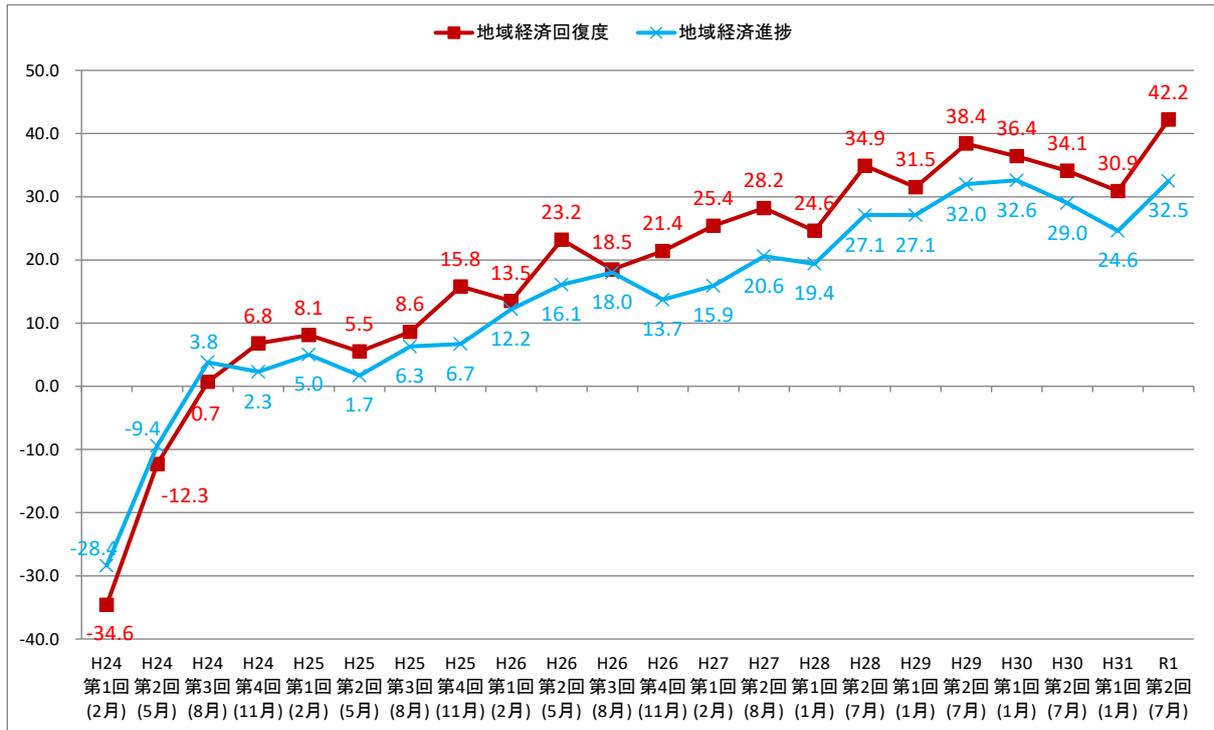
**<動向判断指数(DI)>**  
 掲載する折れ線グラフは、各回の動向判断指数(DI)について時系列にその推移を表わしたものである。  
 動向判断指数(DI)は、「回復した」の回答数がA、「やや回復した」の回答数がB、以下「どちらともいえない」がC、「あまり回復していない」がD、「回復していない」がEのとき、次の式で算出する。  
**動向判断指数(DI) = { (A×2+B) - (D+E×2) } ÷ 2 ÷ (A+B+C+D+E) × 100**  
 (注) 上記「回復した」は、設問によって「達成した」「進んでいる」等となる(他の選択肢についても同様)。

【被災者の生活】回復度と前回調査(※)からの進捗状況に対する実感



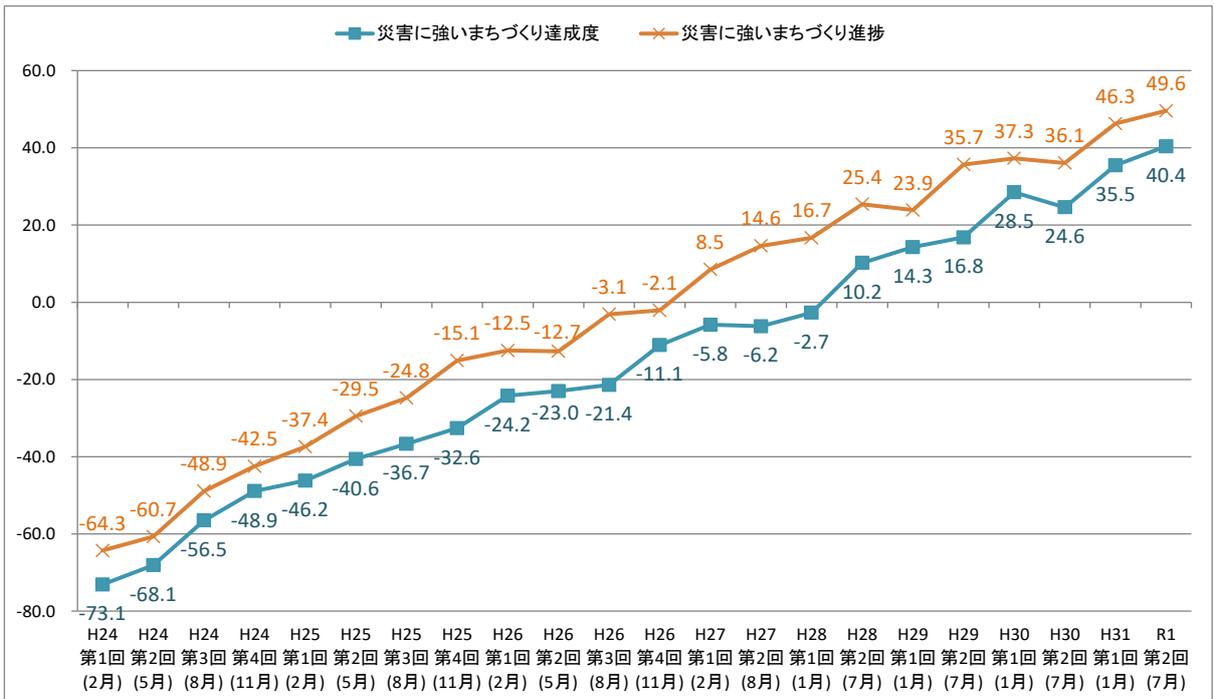
※H27第1回調査までは直近3ヶ月間、H27第2回調査以降は直近6ヶ月(今回であれば、おおむねH31年1月～R1年7月)を指す。

【地域経済】回復度と前回調査(※)からの進捗状況に対する実感



※H27第1回調査までは直近3ヶ月間、H27第2回調査以降は直近6ヶ月(今回であれば、おおむねH31年1月～R1年7月)を指す。

【災害に強い安全なまちづくり】達成度と前回調査(※)からの進捗状況に対する実感



※H27第1回調査までは直近3ヶ月間、H27第2回調査以降は直近6ヶ月(今回であれば、おおむねH31年1月～R1年7月)を指す。

令和元年【第2回】  
「いわて復興ウォッチャー調査」  
結果報告

発行

令和元年9月12日

岩手県

復興局 復興推進課

〒020-8570

岩手県盛岡市内丸10-1

電話(019)-629-6945

ホームページ：岩手県震災復興の動き

<https://www.pref.iwate.jp/shinsaifukkou/fukkounougoki/index.html>